

2012年(平成24)1月

カルメル
霊性センターニュース



2012年1月

272号

目次

特集

教皇ベネディクト十六世の

259 回目の一般謁見演説(1) ・ 1

心の泉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

カルメル会の企画案内・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 3

諸所の企画案内・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 7

年間購読(郵送)のご案内・・・・・・・・・・・・ 4 5

編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4 6

特 集

教皇ベネディクト十六世の 259 回目的一般謁見演説（1）

「男子跣足カルメル修道会司祭、教会博士十字架の聖ヨハネ」について

2011年2月16日（水）午前10時30分から、パウロ六世ホールで、教皇ベネディクト十六世の259回目的一般謁見が行われました。この謁見の中で、教皇は、2011年2月2日から開始した「教会博士」に関する連続講話の第3回として、「男子跣足カルメル修道会司祭、教会博士十字架の聖ヨハネ」について解説しました。以下はその全訳です（原文イタリア語）。

（カトリック中央協議会 司教協議会秘書室研究企画訳）（2011.2.17）

※ 霊性センターニュース1月号～4月号に連載します。

親愛なる兄弟姉妹の皆様。

2週間前、スペインの偉大な神秘家イエスの聖テレサをご紹介しました。今日はスペインのもう一人の重要な聖人についてお話ししたいと思います。すなわち、聖テレサの霊的友人であり、聖テレサと同じようにカルメル会修道家族の改革者である、十字架の聖ヨハネです。十字架の聖ヨハネは1926年教皇ピウス十一世（在位1922－1939年）によって教会博士と宣言され、伝統的に「神秘博士（Doctor mysticus）」と呼ばれます。

十字架のヨハネは1542年、アビラ近郊の、カスティーリャ・ラ・ビエハのフォンティベロスという小さな村に、ゴンサロ・デ・イエペス（Gonzalo de Yepes）とカタリナ・アルバレス（Catalina Alvarez）の子として生まれました。家族はとても貧乏でした。なぜなら、トレドの貴族の家庭に生まれた父ゴンサロは、身分の低い絹織物職人のカタリナと結婚したために家から出され、相続権を奪われたからです。ヨハネは父ゴンサロと幼い頃に死別し、9歳のとき、母と兄フランシスコ（Francisco）とともに、バリャドリッド近郊のメディナ・デル・カンポに移り住みました。メディナ・デル・カンポは経済と文化の中心地でした。このメディナ・デル・カンポでヨハネは「要理学校（Colegio de los Doctrinos）」に通いながら、マグダレナ教会付属修道院の修道女のためにつつましい仕事を行いました。

その後ヨハネは、人間的な性格と勉学の成績のゆえに、まず聖母の御宿り病院の看護師となり、次いでメディナ・デル・カンポに設立されたばかりのイエズス会の学院に入ることを許されました。ヨハネはこの学院に 18 歳で入学し、3 年間、文学、弁論術、古典語を学びました。養成を終えたとき、彼の召命が修道生活であることはきわめてはっきりしていました。そして、メディナにあった多くの修道会の中で、ヨハネはカルメル会への召し出しを感じました。

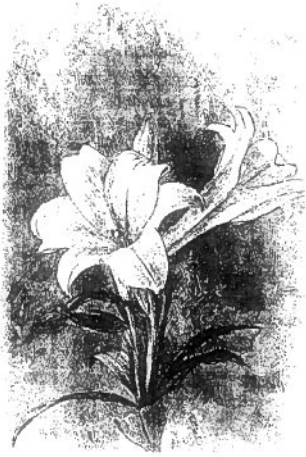
1563 年夏、ヨハネはメディナのカルメル会士のもとで修練を始め、修道名としてマティアス（マティア）を名乗りました。翌年ヨハネは有名なサラマンカ大学に派遣され、そこで 3 年間自由学芸と哲学を学びました。1567 年、司祭叙階を受け、メディナ・デル・カンポに帰って、家族の愛に囲まれながら初ミサをささげました。このメディナ・デル・カンポで、ヨハネとイエスのテレサは初めて出会いました。

この出会いは二人にとって決定的な意味をもちました。テレサは、男子修道会を含めたカルメル会の改革計画を説明し、ヨハネが「神のより大いなる栄光のために」この計画に賛同するよう提案しました。若き司祭ヨハネはテレサの考えに心を捕らえられ、テレサの計画を心から支持しました。二人は既足カルメル修道会の最初の修道院をできるだけ早く設立することに関して考えと提案を共有しながら、数か月間ともに働きました。この修道院は 1568 年 12 月 28 日、アビラ県の寒村ドゥルエロに創立されました。

最初の男子共同体はヨハネと他の 3 人の同志とともに形成されました。原始会則に従って自らの修道誓願を更新する際、4 人は新しい名前を名乗りました。このときからヨハネは「十字架の」ヨハネと名乗りました。後に彼は世界中でこの名によって知られるようになります。1572 年末、聖テレサの求めに応じて、ヨハネは、テレサが修道院長を務めるアビラのエンカルナシオン修道院の聴罪司祭・副院長になりました。この間の密接な協力と霊的友愛は、二人を互いに豊かにしました。テレサの最も重要な著作とヨハネの初期の著作が書かれたのもこの時期です。

(次号に続きます)

心の泉



DE IMITATIONE CHRISTI
キリストにならう バルバロ訳



第一卷

第二十二章 人生のみじめさ

3 死すべき肉体からの離脱

実に内的生活を送っている人は、この世における身体上の必要を非常に重荷に感じる。預言者は、これらの必要から解放されることを切に祈って、「主よ、身体上の配慮から、私を解放してください」(詩編 25・17)と言った。しかし、自分のこのようなみじめさに気づかない人はあわれである。このみじめな、はかない生活に執着している人は、いっそうあわれである。なかには働き、あるいは施しを受けながら、辛うじて生きられるだけのものしか持っていないのに、この世にいつまでも生きられるなら、神の国のことなど思ってもみないほど、現世の生活に執着している人がいる。

4 永遠の善を望む

地上の快樂にひだりきっていて、物質的なことだけしか味わえないとは、なんとおろかな信仰のない人々であろう！しかし、このあわれな人々は、自分たちの愛したものが、どんなにつまらない空しいものであったかを、痛い損害を受けてから、最後に思い知るであろう。かえって神の聖人たちや、キリストの真実な友人たちは、肉を喜ばせるものや、この世で栄えるものを求めず、そのすべての希望と信頼とを永遠の善に置いたのである。見えるものを愛して、低いものに引きずられないように、彼らの望みは、高い、不朽の、見えざるものに向かっていた。

マリアよ、わたしたちの証しが

本物で生き生きしたものとなるようにしてください。
わたしたちもまたあなたにならない

命の源となれますように。



MADONNA DELLE GRAZIE

わたしたちが出会う人々が
わたしたちを通して
永遠の泉にまで
さかのぼることができますように。

その人々がすでに
わたしたちのうちに
一筋の命、
一筋の光を見出しますように。*

～幼きイエスのマリー・エウジェンヌ、ocd

新しい年が<神の母>の祝日で始まります。2012年・・・毎年巡ってくる新しい年。毎年<今年こそは>と迎える新しい年です。今年も一人ひとりにとって「よい年」でありますように。「よい年」となるよう生きていくことができますようにとの願いをマリー・エウジェンヌ神父の聖母への祈りに託します。

「わたしは命、道、真理である」と言われたキリストの母、マリアはわたしたち一人ひとりの母としていつも命の源、三位一体の泉まで導いてくださいます。「人々を神へと導く使命」をマリー・エウジェンヌ神父は自らのものと受けとめていました。その道のりがどんなに険しくなっても「大切なことは、立ち止らず、常に神に向かって歩み続けることだ。聖霊を友に・・・」* と強調し、「聖母の心遣いはわたしたちの生活のあらゆる細部に及ぶ」と母マリアへの信頼を常にうながしていました。

新しい年の初めにあたり、わたしたちの母マリアに信頼して、日常生活の雑踏の中でも三位一体の泉への歩みをしかと目指して歩み続ける決心を新たにしていましょ。

伊従 信子

ノートルダム・ド・ヴィ

* 『聖霊を共に』東京上野毛、宇治カルメル黙想の家にて購入可 200円

エデンの園(12)

くのり 彰

「エデンの園」の詩にもどると、そこには荒涼とした自然が私たちの目の前に広がっている。

「森は 木の葉がなくなって 枯れた樹が 鉄条網のようにつづくのよ」。事実、ドイツのシュバルツバルト（黒い森）では、多量の酸性雨により、多くの木々が立ち枯れ、広大な面積の森が消失しつつある。この衝撃的なニュースが世界に報道されたのは、もう大分以前のことだ。

作者の市田さんは、この中部ヨーロッパの風景を思い描いていたのだろうか。森がなくなれば、当然、そこに住んでいた小動物や鳥や獣も生きて行くことはできなくなる。

「小鳥たちの さえずりは きこえなくなって / きたきつねも あほうどりも うさぎも みんな 死んでしまったのよ」。

人類は、山を崩し、谷を埋め、道を作り、水を引き、家を建て、田を耕し、文化を築いてきた。自然をコントロールし、人間に都合のよい環境を作り上げてきた。そこに技術の絶えざる進歩があり、文明の発展があった。

だが今、私たちに求められるのは、一すでに叫ばれてきたことだが一、人間は、自然と如何に関わるべきかという問題ではなからうか。地球環境を守ろうというエコロジーの問題は、生物学や気象学など、自然科学的な関心から高まって来た。が、それ自体では、この問題を解決することはできないだろう。なぜなら、海や山や川、そこに生息する動植物といった自然と、やはり自然の中に生きる人間という存在そのものの神秘が関わっているからだ。

詩では、「そしてもう よみがえることはないのよ」と言った後で、その理由を説明している。

「神の声に 耳をかたむけることが / あまりにも 少なかったのよ / みんな自分のことばかり 考えていたのよ」

「神の声に耳をかたむけること」。確かにそれが、地球環境を守り、人間と自然の関わりを再考してゆく大きな鍵となって行くのではないだろうか。宗教的次元をぬきにした環境対策は、人間の知恵に基づいた小手先の対応でしかなく、海や山や川や動植物に対する人間の態度そのものが、大きく変わらない限り、その対策は後手後手に回る可能性が強い。

ヘンリ・ナーウエンの 旅路の糧（150）



生涯にわたる旅

ふるさとへ帰ることは、生涯にわたる旅です。そこには、放埒な生活へ迷い込んだり、怒りにうちふるえたりしている私たち自身の姿がいつもあります。それに気づく前には、私たちはみだらな想像や怒りに満ちた思いの中に迷い込んでいたのです。夜見る夢や昼間の夢は、しばしば私たちが道に迷った者であることを思い起こさせます。

祈りや断食や人の世話のような霊的修業は、私たちがふるさとへ帰ることを助けてくれる手段です。ふるさとへ向かって歩いて行くと、私たちはしばしば道がはるか遠いことに気づきます。けれども気を落とさないようにしましょう。イエスは、私たちと共に歩まれ、私たちに道すがら言葉をかけてくださるからです。私たちが注意深くその言葉に耳を傾けるならば、私たちは道の途上にありながら、すでにふるさとにいる自分を発見するのです。

(0701)

ふるさとへもどること

放蕩息子のたとえ（ルカ 15・11～32）では、二人の息子たちが登場します。家から逃げ出し、外国へ行く弟と、家に留まり義務を果たす兄の二人です。弟は酒とセックスで身をもちくずします。兄は厳しい労働に従事し、すべての務めを忠実に果たします。が、それによって自己疎外に陥ります。二人とも道に迷っている（父親にとっては失われている）のです。父親は、息子たちのことで深く悲しんでいます。なぜなら彼は、二人の息子たちのどちらとも、自分の望んでいる親しさを生きていないからです。

情欲も冷めた従順も、真に神の子となることから私たちが妨げます。私たちは、たとえの中での弟のようであれ兄のようであれ、どちらのようであれ、神の無条件的な愛に抱かれ、心の底から憩うことができるふるさとへもどらねばならないのです。

(0630)

（九里 彰訳）

「しかし、マリアは、…すべて心に納めて、思い巡らしていた」(ルカ 2, 19)。

「ルカによる福音」の本文では、この言葉は、「羊飼いたちは、この幼子について天使たちが話してくれえたことを人々に知らせた。聞いた者は皆、羊飼いたちの話不思議に思った」に、「しかし」と言う逆接の接続詞でつながれて、天使や羊飼いの言葉を前にする逆の方向を志向する二つの人間の態度が現れています。一方には、羊飼いの話を聞いた人々、「聞いた者は皆」、その反応は、「不思議に思った」、驚いた、それだけで止まっています。多分、それは、刹那的な、表面的な驚きで、自分の生き方を変革すると言ったことはなかったのです。そして、いつしか、すべてを忘却して以前とまったく変わらない生活を無自覚に続けてゆくのでしょうか。他方には、イエスの母・マリア、この方の天使や羊飼いの言葉に対する反応はまったく次元の違うものです。「すべて心に納めて、思い巡らしていた」。飼う葉桶に眠る幼子の周りに起こってゆくすべて、ナザレで大天使ガブリエルによって告げられた言葉、「その子は偉大な人になり、いと高き方の子と言われる。神である種は、彼に父ダビデの王座をくださる。彼は永遠にヤコブの家を納め、その支配は終わることがない」、この言葉は、現実のベトレヘムの貧しい馬小屋に生まれ、襁褓切れに包まれて眠っている方、どのように結びつくのでしょうか。天使たちが、「いと高きところには神に栄光、地には平和」と、この方の誕生を祝った、しかし、地上では、この方の誕生を喜んだのは社会に底辺に生きる羊飼いたち。この差を、どのように理解すれば良いのでしょうか。「思い巡らす」、この動詞の意味は、ばらばらに切り離しては、即座には真意が見えてこない出来事、言葉を、把握できないからと言って放棄してしまうのではなく、ゆっくり、時間をかけて思い合わせ、最初は理解できなかったもの、一見、矛盾と見えたものの底に隠されている真実を把握するまでに至ること、そして、その把握した真実によって、自分自身が変わられる、新しい者としていただいて立ち上がることです。イエスの母・マリアは、何をしても、イエスを「心に納め」、沈黙の内にこの「思い巡らす」営みの中に沈んでいるのです。それは、御降誕の前後の時期だけではないはず。イエスと共に生きてゆく全期間、各日々に、イエスが宣教活動に出るためにマリアと共に生活した家を離れるときにも、イエスの受難、十字架の死に直面するときにも、イエスの生涯すべてを思い巡らし、イエスの秘儀の中に一步一步深く入って行き、復活の栄光にまでイエスについてゆくのが、神であり、人である方イエスが、「お母さん」と呼びかけた母マリアです。ルカ 渡辺幹夫

教会は毎年1月に主の公現の祭日を祝います。本日の祭日では、異邦人への公現が強調されています。ここにいるのは、この幼子を王として敬いにやって来た外国人であり、全くの部外者たちです。マタイ福音書は「占星術の学者たちが東の方からエルサレムに来て」、幼子イエスに「黄金、乳香、没薬を贈り物として捧げた」と言っています。この三人の賢者たちは何故黄金、乳香、没薬を幼子に捧げたのでしょうか。確かに何かもっと価値のあるもの、ダイヤモンドやプラチナや宝石類を捧げることもできたでしょう。三人の賢者たちにとって幼子イエスに高価なものを捧げることが目的ではありません。彼らの目的は象徴的なものを捧げることでした。金は王にふさわしい贈り物でした。賢者たちはイエスを自分たちと同等のものとは見ていませんでした、むしろ自分たちの王と見ていました。乳香は祭司にふさわしい贈り物でした。賢者たちはイエスを神と人間との間の代弁者である祭司と見ていました。没薬は死者のために使われました。賢者たちがイエスを自分たちの王であり祭司であると考えていた一方で、イエスは人類の救いのために死ぬであろうとも考えていたのでした。

今日の福音の物語は、幼子イエスに導いた星に従った三人の賢者のことを私たちに語っています。彼らは空に輝く星に従いました。彼らにとって、星は旅の終わりに待っている光の世界の充滿の小さな反映にすぎません。公現の祭日は光の反映です。イエスの誕生を通して、私たちは世界に光の到来を見ます。賢者たちを通して、私たちは希望、喜び、平和の光が来るのを見ます。賢者たちは星がどこに自分たちを導くのかを知りませんでした。彼らは星がベトレヘムまで——イエスまで、自分たちを連れてくるまでただそれに従っただけでした。

本日の祭日は、とりわけ私たちに神にとっては外国人や部外者というものはないのだということを見せています。皆が同等に神の愛する子どもたちです。私たちの間に外見上あるいは文化的にどれほどの相違があっても、私たちは皆一人の父、「私たちの」父を持つ一つの家族に属しています。私たちの一人ひとりがそれぞれにとって兄弟であり姉妹です。国籍や、民族、階級、職業による差別の余地はありません。この点に関して一つの例外もありません。本日私たちはユダヤ人であろうとキリスト教徒であろうとカトリックであろうと「選ばれた民」はいないことを神に感謝します。部外者はいません。イエスの母であろうと、金持ちであろうと貧乏人であろうと、特権のある人であろうと孤独であろうと、健康であろうと病人であろうと、聖人であろうと罪びとであろうと、皆呼ばれています。

私たちは自分に「私の星は何でしょうか」とたずねます。賢者たちは星を見て、それに従いました。エルサレムの人たちは従いませんでした。今神はどのように、何に対して私を呼んでおられるのでしょうか？ 神は私がどこで神を見つけ、奉仕し、従うことを望んでおられるのでしょうか？ これは、四つ角でまず正しく曲がり、それからどこは行くべきか考えるみたいです。学者たちは星がどこに彼らを導くかを知りませんでした。彼らはただそれに従っていき、ついにベトレヘムに、——そして、イエスに到達しました。彼らは決心を後悔しませんでした。私たちもイエスに到達するためにこの素晴らしい人たちに倣いましょう。

(Sr. Paulina)

「ヨハネは、二人の弟子と一緒にいた。そして、歩いておられるイエスを見つめて、『見よ、神の子羊だ』と言った。二人の弟子はそれを聞いて、イエスに従った」(ヨハネ 1, 35-37)。

教会が、年毎に、洗礼者ヨハネの証から始まりカナの婚宴での最初のしるしに至る「ヨハネによる福音」の個所の朗読をもって一年を始めるには理由があります。それは、教会が、この新しい年にも、「イエスを指し示された者」から、「イエスを指し示す者」、世界に、人々に「イエスを証しする者」に変えられて行く、この歩みを力強く続ける決意を今一度新たに表明したいからに他なりませんでしょう。無論、教会は、いつも、聖霊に保証され、イエスを間違いなく指し示す、この意味では完全なものです。しかし、教会は、聖パウロと共に、次のことも自覚しています。「わたしは、既に完全な者となっているわけでもありません。何とかして捕らえようと努めているのです。自分がキリスト・イエスに捕らえられているからです。・・・なすべきことはただ一つ、後ろのものを忘れ、前のものに全身を向けつつ、目標を目指してひたすら走ることです」(フィリ^ピ 3, 12-15)。また、「自分のふところに罪人を抱いている教会は、聖であると同時に常に清められるべきものであり、悔い改めと刷新との努力を絶えず続ける」(教会憲章 8)必要を自覚しているのです。むしろ、この自覚を生々と感じているからこそ、完全なもの、聖霊に生かされているものと言えるのではないでしょう。翻って、わたしたち自身の心の中には、この自覚が鋭く目覚めているのでしょうか。「イエスを指し示された者」から、兄弟、隣人、イエスをまだ知らない人たち、社会に「イエスを指し示す者」、「イエスを証しする者」に変えられて行くことへの望みが、燃えているのでしょうか。

イエスは、わたしたちにも「何を求めているのか」と問われます。そして、言われるでしょう。「来なさい。そうすれば分かる」。この招きに応え、弟子たちと共にわたしたちも「イエスのもとに泊まった」と言いたいものです。イエスを頭で、知識で通り一遍で理解するだけではなく、イエスと共に留まり、生きることで体験として分かることが大切です。体験が、たとえ不完全であり、本当に小さいものであっても、徐々に、イエスとの真実な出会いにわたしたちを導き、まことの証人に変えてくださるのです。この「みことばの響き」が、イエスと共に留まる機会となりますように。ルカ 渡辺幹夫

年 間 第 3 主 日

神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい。 (マルコ 1 : 14-20)

わたしたちは、公に宣教活動をお始めになったばかりのイエスに出会います。そこでイエスは人々に召命と挑戦をお与えになります。“時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい。” 事実、福音書の全てのメッセージはこの二つに要約されています。

イエスは神の国のしるしでありシンボルです。そして実際に神の掟をわたしたちの心に浸透させてくださる神の国です。どのようにして人はその神の国に入ることが出来るのでしょうか？イエスはその道を示してくださいます。“悔い改めて福音を信じなさい”と仰います。イエスは全ての人々が悔い改めてイエスを信じることへと招かれます。ここで言われている“悔い改め”はただ過去を反省し悔やむだけではありません。それは根本的な方向転換、その生活の中で何を一番大切にして生きるかということにおいての変換です。イエスを信じるということはその教えを受け入れるだけではなく、イエスに対する根本的な献身を意味します。イエスの働きに全面的に協力し、イエスと共にその王国を建設することです。その王国は、この世の神の国の現存であるイエスを指し示す教会よりも遥かに広く広がって行きます。

今日の福音の第2部はこのイエスの招きを受けてすぐに従った人々の姿を表しています。4人の漁師が呼ばれました。“わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう。”直ちにペトロとアンデレは網と舟を捨てて従いました。ほかの二人も同様に父ゼベダイを置いてすぐ従いました。これはイエスの呼ばれ方で、彼らはイエスの召命を受けたのです。彼らは以前イエスに会っていたかもしれなせん。しかし今彼らは全ての持ち物を置いてはイエスと共に生きる者となりました。これは先生であり主である方に心から従うことであり、一つの挑戦としてイエスの召命を受けました。彼らはこれから人間をとる漁師となり、人々に手を差し伸べて行くでしょう。実際には、彼らは何処に行こうとしているのか、どんな未来があるのかわかりませんでした。いきなり彼らの生活の中に現れたこのお方に対する大きな信頼が、今までのものを全て置いて彼に従うという挑戦をさせたのです。事実、彼らはたかさんの予期しない経験をして行くでしょう。喜ばしいことも苦しいことも。師であるイエスがお始めになった偉大な活動を続けながら、彼らは本当に人間をとる漁師になって行くのです。人々に真理、愛、自由、正義を礎とする新しい生き方を示し、それをもたらして行きます。

“わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう。”人間をとる漁師はキリストの大使、キリストの代理者です。キリスト者は、洗礼の恵みよって世の光となり、人々の模範として先頭を歩み、福音を説いてキリストを世に生み出して行きます。家族に、友達に、同僚に、初めて出会う人に、生涯出会うすべての人々に。全ては神の栄光のためであり、神を愛するためです。ご聖体のキリストの現存が私たちを強め、神の国建設のための必要な道具と成し、キリストの平和、キリストの愛と喜びを人々と分かち合っていく者にしてくださいますように。

(Sr. Paulina)

「人々はその教えに非常に驚いた。律法学者のようにではなく、権威ある者としてお教えになったからである」(マルコ 1, 22)。

「イエスは、安息日に会堂に入って教え始められた。人々はその教えに非常に驚いた」。何を教えられたかは触れられていません。「律法学者のようにではなく、権威ある者としてお教えになったからである」。確かに、律法学者のように他から学んだ知識の受け売りではなく、御自分の中から溢れ出てくるものであったのでしょうか。

さて、「マルコによる福音」では、「教える」との動詞は、イエスにだけ、そして、いつも継続、反復行為を表す「未完了過去」で使用されています。ですから、イエスだけが真実に権威を持って教えることができる何かがある、また、ナザレの会堂でイエスは教えた過去のある時点で完了した事実を報告するのではなく、教え始められ、死に至るまで言葉と行いで教え続けられた、しかも、死で終わってはいない、イエスは、復活者として世の終わりに至るまで、時間、場所を超越して一人ひとりに教え続けておられる、これを「マルコによる福音」は言いたいのです。その原型であり出発点が、約2千年前、ユダヤの地で教え、また癒しの奇跡を実行なさるイエスであった、そして、同じイエスが今わたしたちに同じように働きかけていることに気づくこと、これが重要なのです。イエスだけが教えることができ、今も教え続けておられること、それは、「神の国」の秘密に他なりません(参照マルコ 4, 11)。

イエスの教えに対する人間の反射的反応は、誤解と反発であるようです。「ナザレのイエス、かまわないでくれ。我々を滅ぼしに来たのか。正体は分かっている。神の聖者だ」と、汚れた霊に取り付かれた男は叫んでいます。今日、わたしたちに出会いに来られるイエスの正体、それは、十字架の上で死に、復活し、今も生きておられる方です。「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」(マルコ 1, 15)と、古い人間に死に、新しい復活の命に過ぎ越すようにと招く、権威ある方なのです。しかし、イエスの教え、神の国の秘密は、罪にある人間には、「滅ぼしに来た」としか感知できず、必死になって抵抗し、拒絶している、これが現実かもしれません。この時こそ、汚れた霊への宣告、「黙れ。この人から出て行け」との解放と赦しの言葉をいただけるまで、イエスの前に留まり続けたいものです。 ルカ渡辺幹夫

十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (54)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

ラ・ペニューエラからウベダへ

ヨハネ修道士が修道院の外で過ごした最後の日は、1591年9月28日のことでした。この日に、聖人は一人の若者を伴い、「知人で崇拜者」のホアン・デ・クエジャールから差し向けられたロバの背に乗って、ラ・ペニューエラからウベダへ出発しました。

「神のような騎手」ヨハネ修士が乗ったロバは、約30年間、生きました。1616年にモラーレス隊長が引き取りましたが、遺物としてであったかは分かりません。

幸いなるロバは、歩いたり、速足となったりしながら、ひたすらヴィルチェスやアルキッジョス等を通り過ぎて行きます。

時折、若者は、質問します。

「神父さま、何か召しあがりますか」。

「いや、けっこう。何もほしくない」。

大分時間がたった後、再び言います。

「何か召しあがりますか」。

「アスパラガスがあれば、少し食べたい」。

旅を続け、今日、アリス橋と呼ばれている橋に近づきます。この橋は、当時、リナレス橋とか新橋と呼ばれていました。カルメル会士たちは、「アスパラガス橋」と呼んでいます。実際、グアダリマル川上の橋の四つの径間の一つの下で、聖人は、お伴の者と共に、休むため、つまり、待望の日陰で少し昼寝するために、立ち止まりました。そこから、「同じ川の中の一つの石の上に、一束のアスパラガスを見ました。二人とも驚きました」。

聖人は、若者に、アスパラガスの持ち主が現れないか、あたりを見てくるように頼みました。そしてだれも現れなかったので、彼にこう言いました。

「行って、取って来なさい。そしてアスパラガスのある石の上にこの4マラヴェディ（訳注：貨幣の名）を置いてきなさい。貴重なものと思われるから」。

若者はそのようにし、二人は一束のアスパラガスをウベダ修道院へ持って行きました。そこで「修道者たちは、それを見、あの時期に――9月末だったのですから――アスパラガスがあったことに驚き、奇跡と見なしました」。

修道院でそれを見た人々の一人である神の母のアロンソは、「これらのことをみな、くだんのヨハネ修父がウベダの修道院についていた時、ほほ笑みながら語るのを聞きました。私は、そのアスパラガスを見た証人です。それは、その晩、夕食のために調理されました」。

この世に生きる幸せ

丸山知佳子

神さま、あなたが、愛してお創りになったこの世に、いのちを頂いたことを、
私が、もっと喜び、感謝することが、出来ますように。

育ててもらったことに、ありがとう。

出逢った全ての人達、命達に、ありがとう。

どこまでも続く、美しい空に、ありがとう。

この冬の寒さ、空気の透き通る美味しさに、ありがとう。

寂しさにふと見上げれば、明るく光る星が照らしてくれていることに、ありがとう。

猫の気持ちよく眠る、あたたかい日向に、ありがとう。

今、こうして、まだ生きていることに、ありがとう。

つらいこともあったけれど、神さまとみんなの助けで、今日まで、生きて来られたこと
にありがとう。

四季の美しいこの星に生まれて来たことに、ありがとう。

たくさんの生き物溢れるこの大地に、生きることが出来てありがとう。

痛みを痛む感覚を持てたことに、ありがとう。

涙を流すことが出来ることに、ありがとう。

微笑むことが出来ることに、ありがとう。

自分の弱さにも、ありがとう。

そして、何よりも

神さま、あなたと出逢えたことに、ほんとうに、ほんとうに、ほんとうに、ありがとう。

神さま、どうか、生まれて来なければ良かったと思うほど、悲しみや苦しみに満ちた人達が、生まれて来て良かったと、心の底から思うことが出来るように、必要な癒しと助け、そして愛を、お与えください。

神さま、あなたが、愛してお創りになったこの世に生まれた喜びと感謝を、他の人達、命達と、分かち合うような生き方が出来ますように、助けてください。

この世を、旅立つときに、賛美と感謝と喜びに満ちて、言えますように。

「神さま、あなたのお創りになったこの世界は、とても美しかったです。私は、この世で、出逢った人達に、人生の出来事に、天国を見出すことが出来ました」と。

天国へ行けるのは、きっと、地上で天国を見出せた者なのでしょう。

神さま、このようなことが出来るために、もし、御心に叶うのであれば、

私に、この世での時間を、もう少しお与えください。

もう一度だけ、心身共に、健やかにしてください。

主イエス・キリストと聖母マリアの御取次によって祈ります。

アーメン。

アレルヤ！

新しい年が明けました。

この年が痛みのなかにある人びとにとって、悲しみに耐える人びとにとって、どうか希望の歩みとなりますように、心から祈ります。

「主よ あなたのあわれみは 永久に絶えることはありません」

3・11以来、いつもどことなく気持ちがふさぐ日々を過ごす私たちですが、その心をほっと一息和ませる出来事がありました。

昨年11月、ヒマラヤ山岳地帯の小さな国ブータンから、王様と王妃様が来日されました。これまでにそんなには知ることのなかったブータンですが、来日された国王ご夫妻の印象があまりにも素晴らしく、誰をも魅了するものであったので、ブータン国は一躍脚光をあびることとなり、新聞テレビなどでもたくさん取り上げられ、そのさまざまな面を見聞きすることとなりました。

国土面積は九州くらい、人口は70万くらい、チベット仏教徒で、9割が農業に携わっていること、ブータンという名は龍の国という意味で、実際に国旗には白い龍が描かれていること。このような情報に接しつつ最も惹かれるのは、国が目指す第一が国民の幸福であり、現に自分が幸福であると認める国民の数が世界一であるということです。

テレビの取材映像をみていると、街の中を車が行き交っているにもかかわらず、信号機がただのひとつもないことは驚きです。これは国の規模の問題だけでなく、一人ひとりに落ち着いたゆとりがあるのだと感じられました。

いわゆる裕福では決してないのですが、各々が足りているとの意識をもっているのでしょう。道すじでマニ車を熱心に廻す人びとを見ながら、ブータンという国にふと或る種郷愁を想ったことでした。

王様と王妃様はこのような国にまことにふさわしいお二人でした。

ご新婚であり、すこぶるつきの美男美女であり、お召しになる民族服の何と雅で優美なこと。あたかもお雛様のような姿、立居振る舞い、また真摯な誠実なお人柄で日本中の関心を集めたといっているのでしょう。

特に、被災地を訪れ津波の大地に立たれて、透きとおる鈴の音を響かせて僧侶と共に祈りを捧げられるご夫妻の姿は、思わずこちらも手を合わせたくなるような敬虔さをただよわせ、心打たれました。この日には、相馬市の小学校へも出向かれ、児童たちと親しく交流されましたが、その時の愛情と希望を込めたお話は、祈りの鈴の音のように多くの心に響くものでした。

龍がいると思う人、このなかにいますか と問いかけられ、「私は龍をみたこ

とがあります。龍は皆さんの一人ひとりのなかにいます。そして龍はその人の経験と共に育つのです。皆さんもたくさんの経験をして強い龍を育ててください」と語られました。興味津々に耳を傾ける子ども達のキラキラ輝く瞳が忘れられません。必ずや強い龍が育っていくことでしょう。

さて、ブータンは龍ですが、晴佐久昌英神父さまはくじらなのです。

神父さまの詩集「だいじょうぶだよ」の中に「わたしのなかのくじら」という一篇があります。

わたしのなかにゆったり大きいくじらがいて、ゆうゆうと眠っていて、なにがあっても静かに目を閉じたままで、闇の底で月のように発光して、神々しく輝いて、そして、私の寿命が尽きる日に、目をひらきゆうゆうと泳ぎだす。

大変乱暴な物言いで晴佐久神父さまには申し訳ないのですが、ひと言で云うとそういうくじらなのです。私は静かに一人いるとき、また、眠りにつく床のなかでこのくじらを思い描き、深く潜り、沈み、このくじらにくっついて親密な時間を過ごすのが大好きです。

わたしのなかにいるという経験と共に育つ龍、何があろうともゆうゆうと眠るくじら・・・しかしながら、実はもうひとつ最も大切に思うものがあります。

主イエズスは「わたしが父の内におり あなたがたがわたしの内におり、わたしもあなたがたの内にいる」と深遠に切実に宣べられるのです。

それから、これは余計なおまけですが加えると、孫が幼い時に壁に下がるマリオネットの骸骨を指さし、誰の中にも骸骨は一匹住んでいるってママが云ったよ おばあちゃんのなかにもいるよと教えてくれました。

「わたしのなか」をどのようにイメージし限定するかはとても難しいことに思えます。主イエズスのいわれる「内」を私はほんとうに知っているのでしょうか。若い日のノートには「内在にして超越」などあるのですが、しかしともかくも「わたしのなか」には育ったり眠ったり泳いだりする《私ではないもの》が存在することを思いめぐらすとき、なぜか筆舌に尽くせない身に余るよるこびと感謝の念が満ちるのです。

「わたしのなか」はきっと私の限りではなく、他者と共にある無辺世界であるのでしょう。

そんなことを思います。

…ケリトの水にうるおされて…

カルメルの聖人たちの祈り

25. ロス・アンデスの聖テレサ (1900-1920) — その1

ロス・アンデスのテレサは、1900年7月13日にチリのサンティアゴに生まれ、イエス・マリアのみ心のホアナ・エンリケッタ・ヨゼフィナと名付けられた。両親は裕福な貴族階級に属し、6人の子に恵まれた。ホアナはその4番目の子供であり、家族からホアニタという愛称で呼ばれた。5歳の頃から、ホアナは、人々が神のことや宗教的な事からについて話をしているのを好んで聴き、決して飽きることがなかった。乗馬を愛した彼女は容貌にも恵まれていたが、それは虚栄心のもととなり、他の欠点とともに、大変な努力を払って克服しなければならなかった。6歳の時から、毎日ミサに与かるようになり、「イエス様は、私の心を、ご自分のものとなさるために、お取りになりました」と言っていた。聖体拝領を熱く望んでいたが、10歳になるまで待たなければならず、これは彼女にとって浄化のときとなった。初聖体の前夜、家族のもとに行き、家族の心を傷つけたかもしれないすべてのことについて許しを願った。初聖体を受けた時、「イエスと私の靈魂は、本当に一つに溶け合いました」と語っている。その後も、ご聖体を拝領するたびに、「イエス様は私に長時間お話になりました」と記録している。聖母マリアに対する深い信心を持ち、ロザリオを毎日唱えていた。15歳の時から、死に至るまで、詳細な日記を書き残している。度々、重病を患ったが、喜びを失うことなく、いっそう真剣に信仰を生きた。日記からは、彼女が、自分の人生を苦しみと愛からなるものであると考えていたことが読み取れる。学業成績も秀でていたが、彼女が最も誇りにしていたのは「マリアの子ども」であることだった。音楽の才能にも恵まれ、ピアノやオルガンを弾き、美しい歌声の持ち主でもあった。15歳の時、貞潔の誓いを立て、カルメル会に入る決心をした。パーティーやダンスを好む一方で、貧しい人々に対しても、心遣いを忘れなかった。カルメル会の院長との文通によって靈的指導を受けながら入会の準備をし、1919年5月7日にロス・アンデスの修道院に入会、イエスのテレサという修道名で呼ばれるようになった。8日後、彼女は家族に「カルメルに来てから8日経ちました。天国のような8日間でした」と書き送っている。しかし、この天国は重病のしるしを帯びたものとなり、1920年の聖週間の中に、チフスを発症、その苦しみは最高潮に達した。病者の塗油の秘跡を受けた後、カルメル会の誓願を立てることを許され、1920年4月12日、主の御腕の中で、眠りについた。生前、彼女は書き残している。「死ぬということは、愛のうちに永遠に浸されることです。」



ロス・アンデスの聖テレサ

—— 祈り ——

私のイエス、私をお許してください。私はあまりにもプライドが高く、最もささいな辱めさえも、謙遜をもって受け入れることができません。愛するイエス、私は、聖母とあなたのように、貧しく、謙遜で従順で清い者になりたいのです。あなたの小さな家を、一つの宮殿、一つの天国にしてください。私は、天使たちのように、あなたを礼拝しながら生きたいと心から願っています。あなたのご現存の中で、私は自分が無であることを感じます。私は、本当に不完全な者です。私は、あなたがそうであられたように、貧しい者になりたい。でも、自分ではできないのですから、決して富を愛することがないようにしていただきたいのです。

愛するイエス、私の意志ではなく、あなたのご意志が行われますように。明日、ご聖体拝領に行く許可をいただきました。おお、なんという幸せでしょう。明日、私は、自分の心の中に天国を所有するのです！ おお、イエス、あなたをお愛します。あなたを礼拝します！ あなたと、聖母に、このお恵みを感謝いたします。私はすっかりあなたのものです……、あなただけのもの……、他の被造物のものではありません。

私のイエス、あなたは私の命です。あなたなしでは、私は死んでしまいます。あなたなしでは、私は衰え果ててしまうのです。

日ごとに、私は悪くなっていくような気がします。何に対しても、何の勇氣も感じません。でも、結局のところ、これは神のご意志なのです。このことが、神のみ旨のままになっていきますように。私の母であるマリア様、私は、このことをすっかりあなたの御手にお任せします。なぜ、あなたは私をお見捨てになったのでしょうか。私が、このことを通して教訓を学び、自分の気質を知ることができますように。私の母であるマリア様、この性質を持ちながらも、「よく努力する」ことができますように。あなたが、私の母でいらっしゃることを示し、私にすべてを、特に謙遜をお与えください。愛するイエス様、私に苦しみをお与えください。苦しみは何の妨げにもなりません。あなたは、これほどまでに私を愛してくださるのでから。

* * * * *

この記事は、跣足カルメル在世会員ペニー・ヒッキー氏が編集された Drink of the Stream: Prayers of Carmelites (Ignatius Press, San Francisco, U.S.A., URL <http://www.ignatius.com>) の中から、出版社の許可を得て、抜粋・邦訳したものです。

(注) タイトル中の「ケルトの水」とは、主が預言者エリヤに言われた、「ここを去り、東に向かい、ヨルダンの東にあるケルトの川のほとりに身を隠せ。その川の水を飲むがよい。わたしは鳥に命じて、そこであなたを養わせる(1列17:3-4)」ということばに由来しています。

(泰阜カルメル会訳・編)

いのちの言葉 12月

主の道を整え、その道筋をまっすぐにせよ。

(ルカ 3・4)

これは待降節にあって、私たちが生きるよう招かれている、一つの新しい「み言葉」です。ルカ福音史家は、慰めの預言者と呼ばれるイザヤの言葉を引用しています。初代キリスト者たちは、この言葉が、イエスの先駆けとなった洗礼者ヨハネの姿を示すものだと考えていました。

降誕祭を間近に控えるこの時期に、教会は、先駆けとしての洗礼者ヨハネの姿を示すことにより、私たちが喜びに招いています。ヨハネは、王の到来を告げる使者だからです。この王が、私たちのもとに来られる時は迫っています。神様が契約を成就し、罪を赦し、救いを与えてくださる時は、間近です。

主の道を整え、その道筋をまっすぐにせよ。

このみ言葉は、喜びを告げるものですが、同時に、生き方全体に新しい方向性を与えながら、私たちが根本から生活を変えていくようにと、呼びかけています。

ここで洗礼者ヨハネは、「主の道を整える」よう勧めています。それは、どのようなものでしょうか。

ヨハネが告げ知らせた主であるイエスは、公生活に入り、宣教活動をする前に、荒れ野で過ごす時を持たれました。それがイエスの「道」だったからです。荒れ野で、イエスは御父との深い交わりを経験されました。しかし一方で、誘惑にも出会われ、それによって、イエスは全ての人とひとつになられました。そし

て誘惑に打ち勝ち、荒れ野を出られたのです。また、その死と復活においても、イエスが同じ道をたどられたことがわかります。イエスは、最後の最後まで、ご自分の道を進まれ、それによって、イエスご自身が、まだ歩みを進めている途中の私たちの、「道」になってくださいました。

私たち人間は、神様との満ち満ちた交わりに入ることに招かれていますが、この召し出しを本当によく生きるためには、「イエスご自身」という道を通るべきでしょう。

私たち一人一人は、イエスが私たちの生活の中に入って来てくださるように「道を整え」、イエスが私たちの所に来てくださるため、生活の「道筋をまっすぐに」するよう求められています。

私たちの狭い物の見方や意志の弱さから生まれる「障害物」を、一つ一つ取り除きながら、イエスのために道を整えることが必要です。

そして、自分の道ではなく、イエスが私たちのために準備してくださった道を、自分の思いではなく、彼のみ旨を選び、また私たちの望みではなく、すべてを可能にするイエスの愛によるご計画を選ぶ勇気を持つことです。

そして、一度このように決心したのなら、自分のかたくなな思いが、イエスのみ旨に沿うものとなっていくよう努めましょう。

そのためには、どうすればいいでしょうか。すぐれたキリスト者たちが教えている具体的で賢い、よい方法が一つあり

ます。それは、「今」を生きることです。
瞬間、瞬間において、一つずつ小石を取り除いていくこと、それは、私たちの思いではなく、イエスのみ旨が私たちの内で生きようになるためです。

こうして私たちは、このみ言葉を生きることができるようでしょう。

主の道を整え、その道筋をまっすぐにせよ。

キアラ・ルービック

フォコラーレの創立者キアラ・ルービックが、2008年3月14日に帰天した後、彼女が過去に残した解説を「いのちの言葉」として取り上げています。今月の言葉は、1997年12月に発表されたものです。

★ **いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。**

お知らせ

関東：

**いのちの言葉の集い&クリスマスの
お祝い**

日時：12月4日(日) 14:00 (13:30 受付)

場所：カトリック 藤沢教会

新年会

日時：1月9日(月・祝) 14:00 (13:30 受付)

場所：四ツ谷 イグナチオ教会ヨセフ
ホール

先月のいのちの言葉の体験談

「私たちは、イエスとの出会いを待ちながら、具体的な愛を生き周りの人の中におられるイエスに仕え、より正しい社会を建設するために働くことができます」といのちの言葉にありました。

この間、自宅のベランダから下を眺めると次男の友達が道に一人で座っていました。

その日は土曜日で、いつもだと皆で近くの公園や運動場で遊ぶ時間なのに、何故か一人で寂しそうでした。

その子は家庭の問題で、休みの日は昼食を家で食べれないことを私は知っていたので、よく彼を食事に招いたりしていました。

でもその日はもう既に私たちは食事も済んでいたし次男も遊びに出掛けていました。

その時、私の心の中で今月のいのちの言葉が響きました。

「イエスさまをみて見逃すことは出来ない。」この瞬間は二度と来ないかもしれないと思いました。

私は彼に「食事まだでしょ？いつでも家はあいているから食事においでね。」と心遣いながら誘いました。

私の心に喜びと平和が訪れました。

(S・沖縄)

連絡先

フォコラーレ:03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp

ホームページ:フォコラーレで検索

<http://www.geocities.jp/focolarejapan/focolaresito>

跣足カルメル修道会HP (International)

世界的な跣足カルメル修道会のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。



<< Communications (時事通信) >>

セゴヴィアでの年次総会

「テレジア的祈りの会」創立25周年を迎える

セゴヴィアスペイン発 (2011年12月3日)

十字架の聖ヨハネの墓があるセゴヴィアの跣足カルメル会修道院において、昨年12月3日から6日まで、創立25周年記念を迎えた「テレジア的祈りの会」の年次総会が開かれました。「テレジア的祈りの会」は、聖テレジアが神との友情の道を歩みたいと望む人々のために勧めている兄弟愛の雰囲気の中で祈るために、また祈りを学ぶために創立されました。この会は全スペイン、ポルトガル、またポーランドやイタリアなどのヨーロッパ諸国、そして南米諸国に存在します。

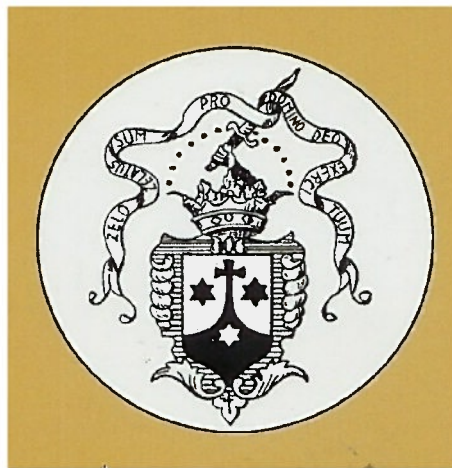
特に養成に力を入れながら、この会は、祈りが個々人と会を教会と人類に捧げてゆく使命の基盤であると理解しています。彼らは、祈りを、マリアさまがなさったように、キリストとみ言葉のために道を開いてゆく自らの召命として生き、イエスの聖テレジアや十字架の聖ヨハネや他のカルメルの聖人達の教えに従って歩んでいます。

カルメル会は、その霊的な宝である祈りの体験が、1982年の聖テレジア帰天400周年記念祭の時の勢いのように、全教会にあまねく伝わることを願っています。当時、イベリアの管区長会議は、カルメルの霊性を促進する新しい方法を模索するために特別委員会を設置しました。その活動は、第二ヴァチカン公会議によって触発された熱意に基づき、カルメルの使徒職を刷新し、テレジアの教えと体験を信徒と分かち合おうとするものでした。1970年代に、特に1982年に、この試みからグループや祈りの学校が、ブルゴス、サラマンカ、パンプローナ、バルセロナなどで創設されました。このようにこの会の旅は始められ、神学者、テレジア研究家、全カルメル家族から選ばれた司牧者達から成る委員会によって熟考された結果は、1987年春に与えられた「テレジア的祈りの会」の会憲の中に具体化されました。

祈りの資料と指導については、会のウェブサイト(www.goteresiana.com)でご覧いただけます。



カルメル会の企画案内



上野毛靈性センター ～'13年3月

黙想企画 ** 聖テレジア修道院 (黙想) **

1. 一泊聖書深読指導：新井延和神父
(毎回金曜日夕食～土曜日16時)

2012年

3月 9日～ 3月10日

6月22日～ 6月23日

9月 7日～ 9月 8日

11月30日～12月 1日

2013年

3月 1日～ 3月 2日

2. 奉献生活者の為の黙想会

7月26日(木) 18時～8月 4日(土) 福田正範神父

8月16日(木) 18時～8月25日(土) 福田正範神父

12月27日(木) 18時～2013年1月5日(土) 福田正範神父

3. 木曜黙想会(毎回木曜日10時～16時)

1月26日 「永遠のいのち ー霊から生まれた者は霊であるー」 中川博道神父
年間テーマ 「信仰」

4月19日 「信仰の創始者、完成者たるイエス」 福田正範神父

6月21日 「信仰に生きる」 古川利雅神父

9月 6日 「信仰の成熟」 渡辺幹夫神父

11月29日 「信仰とは？」 中川博道神父

4. 金曜黙想会 カルメルの聖人 (毎回金曜日10時～16時)

2月17日 「幼きイエスの聖テレジア」 福田正範神父

7月13日 「ロス・アンデスの聖テレサ」 古川利雅神父

12月14日 「十字架の聖ヨハネ」 中川博道神父

2013年

2月22日 「カルメルの原始会則の靈性」 渡辺幹夫神父

6. 青年黙想会(男女)

4月28日(土)～4月30日(月)

11月23日(金)～11月25日(日)

6. 召命黙想会(男女)

7月14日(土)～16日(月)

7. 祭日のミサに参加するために

【聖週間】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能です。

4月5日(木)～8日(日)《講話なし、各食事つき》

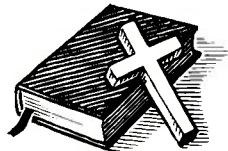
【クリスマス】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

2012年12月24日(月・振休)～25日(火)《講話なし、夕食なし》

8. 聖週間前の黙想会(2013年)

※注) 2013年

3月17日(日)18時～3月19日(火)15時



電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までをお願いします。
またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いません
のでなるべくFAX・はがき・Eメールでお願い致します(お返事はいたします)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

e-mail:mokusou@carmel-monastery.jp

金曜黙想会

テーマ《カルメルの聖人》

「幼きイエスの聖テレジア」



日時： 2012年2月17日（金） 10時～16時
指導： 福田正範師（カルメル会上野毛修道院司祭）



場所： カルメル会上野毛聖テレジア修道院
（黙想の家）

会費： ￥3500（昼食を含む）

お申込み・・・FAX、メール、ハガキにてお願い致します。
〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25
カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

お問合せ・・・TEL.03-5706-7355
FAX. 03-3704-1764
Eメール：mokusou@carmel-monastery.jp

聖書深読黙想会

〈一泊〉

聖書は、いろいろな方法で読むことができます。
指定された主のみ言葉を、幾人かと共に読み、それを互いに分かち合います。
聖霊の照らしを受けながら、自分に語られる主のみ言葉を深く味わい、共に交わる人々と、お互いに心を養う機会としましょう。神と人に心を開くことは、福音を生きたることです。皆様のご参加をお待ちしています。

* 日時：2012年3月9日（金）18時～10日（土）16時

（曜日が金曜～土曜日となりましたのでご注意ください）

* 場所：カルメル会聖テレジア修道院黙想・黙想の家

* 指導：新井延和師（カルメル会司祭）



* 会費：¥7000

* 持ち物：筆記用具、洗面用具、パジャマ

（タオル、バスタオルは、各部屋に備えあります）

聖書、祈りの本は、黙想の家にあります。

参考書：「聖書深読法の生いたち」（奥村一郎著 ¥1050）

ご希望の方は、黙想の家でお求め下さい。



お問合せ・お申込は、TEL. FAX、ハガキにてお願いします。

〒158-0093 世田谷区上野毛 2-14-25

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

Tel.03-5706-7355

Fax.03-3704-1764



講座のご案内

■場所：カトリック上野毛教会（信徒会館ホール）

■担当：中川博道（カルメル修道会）

■どなたでもいつからでもご参加ください



カルメルの靈性に親しむ

朝のクラス・火曜日

《10:30~12:00》

夜のクラス・金曜日

《19:15~20:45》

※1月31日は中止になりました。

2月21日	2月24日
3月27日	3月23日

キリストとの親しさ

朝のクラス・火曜日

《10:30~12:00》

夜のクラス・金曜日

《19:15~20:45》

1月17日	1月17日*火曜日
2月7日	2月10日
3月6日	3月9日

キリスト教の基本を学ぶ

—洗礼準備の為、又キリスト教の基本を学びなおす為に—

いずれも 金曜日

朝のクラス《10:30~12:00》

夜のクラス《19:30~21:00》

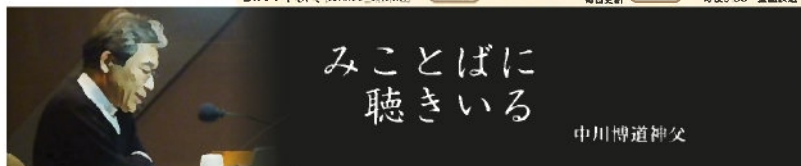
16	1月13日	「キリストと共に生きる道」(2)
17	2月3日	「キリストと共に生きる道」(3)
18	2月17日	「主の祈り」
19	3月2日	「キリスト者が大切にしていること」
20	3月16日	「秘跡」(1)

キリスト教放送局放送中
ラジオ(月)夜10:15~
インターネット放送 いつでも

キリスト教放送局
FEBC
2011年秋冬(2011.10.2~2012.3.31)

インターネット放送
www.febejp.com
毎日更新

AMラジオ放送
AM1566kHz
毎夜9:30~全国放送



お問合せ: carmel-reisei@hotmail.co.jp

2012年黙想会案内

(宇治カルメル会)

【一般のための黙想】 ・ 1泊2日 (午後5時～午後4時)	1月 28日(土)～ 29日(日)	一つになる	今泉健神父	
	3月 24日(土)～ 25日(日)	一粒の麦	九里彰神父	
	5月 12日(土)～ 13日(日)	聖母の愛	新井延和神父	
	7月 7日(土)～ 8日(日)	聖霊の体験	今泉健神父	
	9月 1日(土)～ 2日(日)	神の国の訪れ	松田浩一神父	
	11月 24日(土)～ 25日(日)	黙示録	新井延和神父	
【聖書深読黙想会】 ・ 1日 (午前10時～午後4時)	2月 4日(土)		松田浩一神父	
	4月 28日(土)		新井延和神父	
	6月 30日(土)		新井延和神父	
	10月 6日(土)		新井延和神父	
	12月 22日(土)		新井延和神父	
	・ 水曜の黙想 (午前10時～午後4時)	1月 11日(水)	私たちの福音宣教	松田浩一神父
		2月 15日(水)	悔い改め	新井延和神父
		3月 14日(水)	聖ヨゼフの愛	新井延和神父
		4月 18日(水)	復活のキリスト	今泉健神父
		5月 30日(水)	マリアとヨゼフ	新井延和神父
		6月 20日(水)	キリスト教信仰	松田浩一神父
		7月 25日(水)	真理	新井延和神父
9月 5日(水)		テレーズと共に	今泉健神父	
10月 17日(水)		終生おとめ聖マリア	松田浩一神父	
11月 14日(水)		キリストの第二の到来	今泉健神父	
12月 12日(水)		受肉	新井延和神父	
・ 四旬節の黙想 (午後8時～午後4時)		3月 2日(金)～3月 4日(日)		松田浩一神父
	神の子主キリストの憐れみ			
・ 待降節の黙想 (午後5時～午後4時)	12月 1日(土)～12月 2日(日)		今泉健神父	
	肉となったみことば			
・ 聖テレーズの黙想 (午後5時～午後4時)	9月 30日(日)～10月 1日(月)		伊従信子師	
【キリスト教霊的同伴】 (午後8時～午後3時) 限定10人	5月 2日(水)～ 5月 6日(日)		松田浩一神父	
カルメル青年黙想会 (午後5時～午後4時)	4月 28日(土)～ 4月 30日(月)		カルメル会士	
	観想者イエス。キリストに従う			
	11月 10日(土)～11月 11日(日)		カルメル会士	
	観想者聖マリアに従う			
【一般のためのカルメルの霊性入門】 (午後5時～午後4時)	2月 24日(金)～2月 25日(土)		松田浩一神父	
	イエスの聖テレサと十字架の聖ヨハネの霊的識別			
	10月 14日(日)～10月 15日(月)		松田浩一神父	
	イエスの聖テレサの靈魂の城の導入			
奉献生活者の黙想 (午後5時～午前9時)	8月 2日(木)～ 8月 11日(土)		松田浩一神父	
	8月 16日(木)～ 8月 25日(土)		今泉健神父	
	12月 27日(木)～ 1月 5日(土)		新井延和神父	

祭日のミサに参加するために

【聖週間を祈る】 チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11時

聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能です。

4月5日(木)～4月8日(E [講話なし、各食事つき])

【クリスマス】 チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11時

12月24日(月)～12月25日 [講話なし、各食事つき]

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。—

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申し込み下さい。お電話は、なるべく午前9時～午後5時の間をお願いいたします。受け付けが休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様をお願いいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)

Tel 0774-32-7016, Fax 0774-32-7457

E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

『社会人(働いている人)のための霊的同伴』

— 一日常のキリスト教霊性を求めて —

日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、キリスト者の霊的・心的修養を目的として、**霊的同伴(スピリチュアル・コーチング)**を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

【内容】

- この企画は、個人的霊的修養でもありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点(霊的理解)を促進しますので、この静かな一時の中で短い個別同伴(一人 30 分)を行います。
- メソッドの一つとしてスピリチュアル・コーチングを適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに行為されるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにおいて行います。

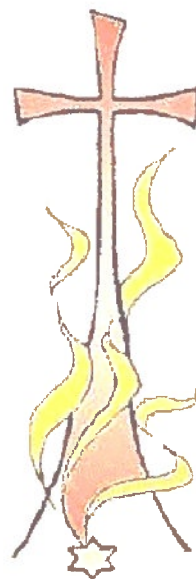
【参加者人数】

6 人

【開催日】

- | | | |
|---|-------|------------------|
| ① | 2012年 | 1月13日(金)～14日(土) |
| ② | | 2月10日(金)～11日(土) |
| ③ | | 3月16日(金)～17日(土) |
| ④ | | 4月13日(金)～14日(土) |
| ⑤ | | 6月 8日(金)～ 9日(土) |
| ⑥ | | 7月13日(金)～14日(土) |
| ⑦ | | 9月 7日(金)～ 8日(土) |
| ⑧ | | 10月12日(金)～13日(土) |
| ⑨ | | 11月 9日(金)～10日(土) |
| ⑩ | 2013年 | 1月25日(金)～26日(土) |
| ⑪ | | 2月 8日(金)～ 9日(土) |
| ⑫ | | 3月 8日(金)～ 9日(土) |

(毎回金曜日 20時(夕食なし)～土曜日 15時)



【参加費】 各回 5,500 円

【霊的同伴】 松田浩一神父(カルメル会士)

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45 迄に、下記の聖テレジア修道院(黙想)へ FAX、はがき、Eメールで申し込んでください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御歳山39-12
 カルメル会宇治聖テレジア修道院(黙想)
 Tel 0774-32-7016、Fax 0774-32-7457
 E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

「立ちどまって、ひとりになって、聴いてみよう！」

～都会の中の一泊静修～（2012）

「イエスにお目にかかりたいのです」

—今の時代から「イエスに会いたい」と問われているわたしたち—

「イエスにお目にかかりたいのです」(ヨハネ 12:21)。この願いは、(中略)大聖年を過ごした私たちの耳にも霊的にこだましています。二千年前の巡礼者のように、今日の人々は今日の信仰者に、たとえ意識的にでなくとも、キリストについて「語ってほしい」だけでなく、ある意味でキリストに「会いたい」と願っています。教会の務めは、歴史のあらゆる時代にキリストの光を放つことであり、今日も、新しい千年期の人々の前に、キリストのみ顔の光の輝かせることではないでしょうか。

しかし、わたしたちがまずキリストのみ顔を親想しない限り、わたしたちのあかしは耐え難いほど貧弱なものであるに違いありません。
(教皇ヨハネパウロ二世使徒的書簡「新千年期の初めに」 p. 22)

第1回	1月9日(月・祝)	キリストの御顔の親想と宣教(全体の導入)	中川博道神父 (上野毛修道院)
第2回	2月 4日(土)	苦しみとイエスに出あうこと	福田正範神父 (上野毛修道院)
第3回	3月31日(土)	イエスの聖テレジアにおけるキリストの福音	松田浩一神父 (宇治修道院)
第4回	4月14日(土)	復活したキリスト：復活のラウレンシオ	今泉健神父 (宇治修道院)
第5回	5月26日(土)	聖霊が働く	新井延和神父 (宇治修道院)
第6回	6月16日(土)	三位一体のエリザベットと宣教	九里章神父 (本部修道院)
第7回	7月 7日(土)	聖体と宣教：ヘルマン・コーヘン	古川閑雅神父 (上野毛修道院)
第8回	9月22日(土・祝)	マリー・エウジェニス姉 人々を神への親しさへと導く	Sr.伊従信子 (ノートルダム・ド・ヴィ)
第9回	10月20日(土)	布教の保護者、幼きイエスの聖テレジア	Sr.パウリナ (宣教カルメル修院)
第10回	11月23日(金・祝)	十字架の聖ヨハネと宣教	九里章神父 (本部修道院)

- * 時間 AM10:00～PM4:00
- * 場所 カトリック日比野教会(地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分) *聖テレジア幼稚園隣接
- * 参加費 1,000円
- * 持ってくるもの 聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当
- * 定員 約30名
- * プログラム
 - 10:00～ 祈り・導入・黙想
 - 10:30～ 講話(1)
 - 黙想・赦しの秘跡または面接
 - 11:50～ 昼の祈り・お告げの祈り
 - 12:15～ 昼食
 - 12:50～ 黙想・赦しの秘跡または面接
 - 13:30～ 講話(2)
 - 14:45～ ミサ
 - 15:30～ 茶話会・分かち合い
 - 16:00～ 終了予定

☞ 申し込みは、下記の住所へハガキかFAXで、氏名・住所・TEL、(所属教会)を記載の上、開催日の3日前までに必着のこと。なお、日比野教会で葬式などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

☆ 名古屋カルメル霊性センター

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17 カルメル会日比野修道院 FAX 052-671-1825

一日静修連絡係 〒465-0058 名古屋市長東区貴船3-2115 小林 厚・晃子

TEL・FAX 052-701-3685

2012年度名古屋聖書深読会

第1回 4月30日(月・祝) 新井延和神父(宇治修道院)

第2回 10月27日(土) 新井延和神父(宇治修道院)

- 時間 午前10時～午後4時
- 場所 カトリック日比野教会
地下鉄名城線日比野下車、徒歩約5分 *聖テレジア幼稚園隣接
- 参加費 ￥1000
- 持ち物 聖書・筆記用具・ノート・昼食等

* 毎回、事前に「名古屋教区ニュース」でお知らせします。

* 申し込みは、開催日の3日前までに Fax またはハガキで下記へお願いします。信徒の方は、所属教会名も記載下さい。

* 対象は、信徒、未信徒の別を問いません。キリストの教えに関心のある方なら、どなたでも構いません。

☎ 申し込み先

名古屋カルメル霊性センター

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17

カルメル会日比野修道院

FAX 052-671-1825

☆連絡係

〒465-0058 名古屋市名東区貴船3-2115

小林 厚・晃子

TEL/FAX 052-701-3685

土曜フレックスタイム静修

毎月第3土曜日 13:30～16:30 の予定で行います。

ご自分の都合に合わせて好きな時間に参加でき
(来る時間も帰る時間も自由)、靈的にだけでなく
心身ともにリフレッシュできる時間としてご利用下さい。

日時 毎月第3土曜日 13:30～16:30

場所 三馬教会(石川県金沢市)

プログラム

13:30～15min. 聖書朗読と短い講話

14:30～15min. ベネディクション・聖体顕示

15:30～15min. サルヴェレジナ・聖体拝領

16:30 終了



各合間の時間は各自自由に黙想しながら祈る時間です。

カルメル靈性センター

〒921-8162 金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会三馬修道院 三上和久神父

TEL 076-244-7788

聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち2箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 18,900円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 16,900円

講師：九里彰師（奇数月） 新井延和師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話03-3344-2527（直通）

2 ミニ深読

グループで2、3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはSrパウリーナが指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局 Srパウリーナまでご連絡下さい。

◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：奥村一郎神父 事務局長：新井延和神父 連絡先：Srパウリーナ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

2011 「カルメル」 今日の霊性・冬号 特集号



2011 冬 No.343

カルメル 2011 特集号

「混沌の時代に生きる道を探して」

特集

● 目次 ●

荒れ野を行く道

中川博道 2

キリスト教の歴史から学ぶ

川村信三 16

―悔い改めた信徒のエネルギーと教会の再生

釘宮禮子 29

使徒職の現場から

松田浩一 37

神のいつくしみの中に生きる

イエスの聖テレサ

九里 彰 51

暗夜の中を歩む 十字架の聖ヨハネと共に

九里 彰 51

目次

二〇一一年特集 マリー・エウジェニス (4)

伊徒信子 3

幼きイエスのマリー・エウジェニス神父

伊徒信子 3

―神の証し人―

幼きイエスの

マリー・エウジェニス神父と共に接する

マリー・エウジェニス

ロザリオの祈り

高・武 中山寛里 11

「完徳の道」におけるアウイラの聖テレシアと離脱

九里 彰 15

カルメルの霊性の源流を探して

中川博道 24

―その「会則」に見る生活―

中川博道 24

修道院生活 春夏秋冬 (4)

高橋玉幸 31

私のよるこび

ペトロ・アロイジオ 38

ナチスのユダヤ人迫害とエディット・シュクティン

須沢かおり (2) 46

「カトリシズム」を貫くもの

谷口正子 52

―日本のカトリシズムを守った人々―

谷口正子 52

愛の断章 22

奥村一郎 59

購読のご案内

雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。(カトリック書店：サンパウロ、ドンボスコ書店等) 定価は、一冊460円です。

- 送付ご希望の方は、600円【内訳 460円 (+送料140円)】を下記へお振込み下さい。
- まとめてご購入希望の方は、年会費 (年5冊：春夏秋冬号・特集号【460円×5=2,300円】+ 送料【700円】計 3,000円) を下記へお振込み下さい。

郵便振替：00190-4-195457 跣足カルメル修道会
お問い合わせは、事務担当竹田まで。

TEL (03) 5706-8356

新刊紹介

神と人びとへの 燃える愛の心からあふれたでた短い言葉集

テレーズの短い人生のなかで残された言葉が
四季の花々のように光をあび、輝いています。

毎日美しい1日をはじめるために 愛と信頼、委託、喜びの言葉！



レイモンド・ザンベリ / 編
伊従 信子 / 編訳

女子パウロ会出版 391 ページ

諸所の企画案内



心のいほり 内観黙想センター
真命山 霊性交流センター
リーゼンフーパー神父キリスト教講座
ノートルダム・ド・ヴィ
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院
マリアの御心会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご紹介下さい。
よろしくお願い致します。



諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。電話では取り次いでおりません。

申し込みは10日前迄に完了、お願いします。会場予約準備がありますので。

◎572-0001 大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり 内観瞑想センター」藤原神父
FAX 072・802・5026 Eメール fujinao1944@nifty.com
<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

6泊7日 開始日午後2時より 終了日午後2時まで

2012年予定

- M 1 01/13 (金) -1/19 (木) 兵庫・売布・女子ご受難会
- K 1 01/24 (火) -1/30 (月) 東京・小金井・聖霊会
- M 2 02/13 (月) -2/17 (金) 韓国グループ限定 兵庫・売布・女子ご受難会 (4泊5日)
- P 1 02/11 (土) -2/17 (金) 西宮・女子トラピスチヌ
- K 2 03/02 (金) -3/08 (木) 東京・小金井・聖霊会
- B 1 03/10 (土) -3/16 (金) 千葉白子・十字架イエス・ベネディクト
- M 3 03/23 (金) -3/29 (木) 兵庫・売布・女子ご受難会
- P 1 04/10 (火) -4/16 (月) 西宮・女子トラピスチヌ
- N 1 04/27 (金) -5/03 (木) 滋賀唐崎・ノートルダム
- K 3 06/01 (金) -6/7 (木) 東京・小金井・聖霊会
- N 2 06/15 (金) -6/21 (木) 滋賀唐崎・ノートルダム
- P 2 07/20 (金) -7/26 (木) 西宮・女子トラピスチヌ
- N 3 09/20 (金) -9/26 (木) 滋賀唐崎・ノートルダム
- P 3 09/30 (日) -10/06 (土) 西宮・女子トラピスチヌ

真命山の靈性



自然 神はすべてを造り人の手にゆだねられた

陽の昇るところから
陽の沈むところまで **祈り**



静けさ 沈黙の中に神の言葉を聞こう

信仰体験を分かち **交わり**

御聖体、愛の秘跡



- 1月12日 愛の秘跡である御聖体
- 2月9日 信仰の神秘
- 3月8日 「過越」の子羊
- 4月12日 教会を生み出す御聖体
- 5月10日 御聖体とおとめマリア
- 6月14日 キリストによって、キリストとともに、キリストの内に御聖体に生かされて生きる
- 7月12日 御聖体
- 8月 休み
- 9月13日 御聖体の典礼と美
- 10月11日 御聖体と福音の宣教
- 11月8日 御聖体礼拝
- 12月13日 終末の宴

指導者
フランコ・ソットコルノラ神父
(真命山院長)
ダニエレ サルティ・サルトリ
神父
Sr.マリア デ・ジョウルジ

申し込み先
865-0133
熊本県玉名郡和水町1391-7
真命山諸宗教対話・靈性交流センター
TEL 0968-85-3100
Fax 0968-85-3186
E-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

個人またはグループでの黙想会や研修会も歓迎いたします。
(要予約)

●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。
キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。

●土曜アカデミー 以下の土曜日、

9時30分～12時15分、岐部ホール4階404、
19・20世紀近代・現代のキリスト教関係の
思想・哲学・神学を考察します。思想史とキリスト教の
関係に関心を持っている方、プログラム等に関してHP(文末)を見て下さい。
冬学期: 中世のスコラ学・神秘思想(11～15世紀) 01/07、1/14、01/21、01/28

●坐禅会

月曜日 17時20分～20時10分
木曜日 18時～20時30分
(祝日、4月21日を除く)
場所: 上智大学内クルトウルハイム1階正面左の部屋
3回坐り、間に講話があります。
初心者も歓迎です。遅刻も不定期の参加も可。

●ミサ 水曜日 17時10分～18時

上智大学内クルトウルハイム1階右小聖堂
どなたでも。但し祝日、8月全体、9月21日、11月2日、1月4日は休み。

●ミサ後の黙想

18時～18時30分 上智大学内クルトウルハイム1階右小聖堂
どなたでも。但し祝日、8月全体、9月21日、11月2日、1月4日は休み。

●祈りの集い 下記の土曜日

13時30分～16時 上智大学内S.J.ハウス第5会議室
講話、黙想、ミサがあります。

12月3日、
2012年1月7日、2月18日、3月10日

●ロザリオの祈り 同日16時10分～50分 クルトウルハイム1階右小聖堂

●黙想

【会社帰りの黙想】

毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時
聖イグナチオ教会マリア聖堂、どなたでも。
但し祝日、8月9日休み。8月23日は上智大学内クルトウルハイム聖堂。

【お昼の黙想】 毎月第1・3火曜日

10時40分～12時 聖イグナチオ教会マリア聖堂 但し祝日、8月2日は休み。

●黙想会

2012年 2月4日(土)10時～5日(日)15時(東村山)
*1泊5900円程度

●アガペ会

2012年 1月21日(土)
説明会・集い(13時半～): 上智大学内S.J.ハウス第5会議室
ミサ(17時～): クルトウルハイム1階テレジア聖堂



リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

リーゼンフーバー神父キリスト教

入門講座 2011年～2012年

日時 毎週金曜日

18時45分～20時30分

- 01/06 希望を持つ勇氣— 未来に向かって歩む
- 01/13 霊の動き— 福音による生き方
- 01/20 聖書と教会— 信仰の基盤となる言葉
- 01/27 秘跡と教会生活— 毎日を養う信仰
- 02/03 神の言葉— 神との日常的な対話と黙想の仕方
- 02/04-05 黙想会(東村山)
- 02/10 結婚と独身— 愛の道
- 02/17 信徒・司祭・修道者— 誰もが召されている
- 02/24 仕事という人間の課題— 社会と教会に寄与して働く
- 03/02 人間の苦悩— 悪とは何のためか
- 03/09 死— その受け入れと克服
- 03/16 人生の完成— 神の内に生きる

リーゼンフーバー神父キリスト教

理解講座 2011年～2012年

日時 第1・3・5火曜日

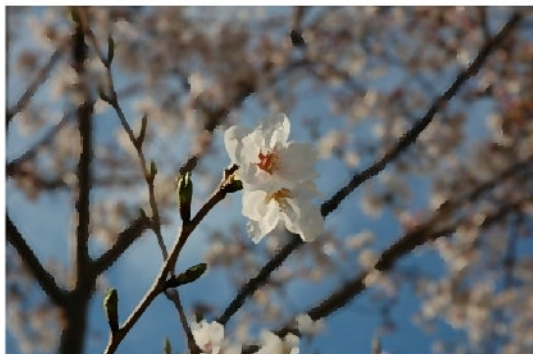
18時45分～20時30分

日常生活

- 01/17 教会生活とミサ— キリストの体の神秘
- 01/31 秘跡の恵み— たえざる回心とキリストのいのちの深まり

信仰の実現

- 01/17 教会生活とミサ— キリストの体の神秘
- 01/31 秘跡の恵み— たえざる回心とキリストのいのちの深まり
- 02/04-05 黙想会(東村山)
- 02/07 祈りの本質と霊的読書— 神との心の交流
- 02/21 日常に活かされる霊性— 活動における観想
- 03/06 「聖徒の交わり」— 信仰の内に支え合う



《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)

信徒会館3階

アルペホール TEL 03・3263・4584

クラウス・リーゼンフーバー神父

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1

上智大学SJハウス

電話 03-3238-5124(直通)

-5111(伝言)

Fax 03-3238-5056

※リーゼンフーバー神父様HPアドレス

http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/

いのちの泉へ（ノートルダム・ド・ヴィ）

●「いのちの泉へ」
すべての人のための祈りの集い

カルメルの霊性に学びつつ、キリスト者としての霊性を養うための講話と、沈黙の祈りで構成された集いです。

2012年 1月 28日(土)
2月 25日(土)
3月 24日(土)

講話 伊従信子
午後2時～午後5時30分位まで、
講話、祈り、分かち合い。
参加費 200円

余震などの影響で、急遽中止になる事も考えられます。参加をご希望の方は、当日の午前～2時迄にお電話かFAXでこちらまでご連絡頂けますと幸いです。

申し込み・お問い合わせ
ノートルダム・ド・ヴィ
〒177-0044
練馬区上石神井4-32-35
TEL(03)・3594・2247
Fax(03)・3594・2254
E-mail notredamedevie.japan@gmail.com
ホームページ
<http://www.ndv-jp.org/>

カルメル会の霊性を受け継ぐノートルダム・ド・ヴィ(いのちの聖母会)は、現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉獻を通して、祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。



ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1
Tel: 077-579-7580
Fax: 077-579-3804
E-メール: karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約13分

◎ 日程：

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。

- ①11年12月27日(火)～12年1月4日(水)
- ②12年3月14日(水)～3月22日(木)
- ③8月15日(水)～8月23日(木)
- ④10月27日(土)～11月4日(日)
- ⑤12月27日(木)～13年1月4日(金)

B. 祈りの体験：週末3日間(金曜日の夕食～日曜日の昼食)

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ①2月3日(金)～2月5日(日)
- ②4月27日(金)～4月29日(日)
- ③5月18日(金)～5月20日(日)
- ④6月15日(金)～6月17日(日)
- ⑤7月13日(金)～7月15日(日)
- ⑥9月21日(金)～9月23日(日)
- ⑦11月23日(金)～11月25日(日)

C. 講話 黙想(奉献生活者のため)

5月26日(土)～6月3日(日) 松田 浩一 師(カルメル会)

◎ 対象：信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他

◎ 申込み： 1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて
郵送、または、Faxで「黙想係」松本佳子 へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。先着順11名です。

◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なされたい方はご相談ください。(但し、上記の日程と8月1日～8月9日を除きます。)

「来て、見なさい」

「イエスとの関わり」

一主よ、私の道はどこに—
祈りと分かち合い

テーマ：イエスの癒し 9/4(日)
：イエスの許し 10/9(日)
：私の委ね 11/13(日)
：私の選び 2012年1/29(日)

時間：14:00～17:00 *ミサはありません。

対象：自分の道を探している

35歳までの独身女性

場所：マリアの御心会 (JR信濃町下車3分)

会費：各回500円

担当：マリアの御心会会員

申込み：電話03-3351-0297 締切り2日前

働いている人のための
祈りの集い
みことばの分かち合い

時間 19:00～20:30 (第2水曜日)

2011年12月14日

2012年1月11日、2月8日、3月14日



軽食あり、自由献金

主催：マリアの御心会

JR「信濃町」下車徒歩3分

お問い合わせ

TEL 03-3351-0297

靈性センターニュース

年間購読(郵送)のご案内



『靈性センターニュース』年間購読(郵送)のお申し込みを受け付けいたします。

ご郵送は、基本的に申し込み翌月から12月までとなります。
例：1月申込の場合は、2月号～12月号（8月号休刊除きます）
この場合の献金については、ご希望の月数×250円程度となります。

(※2013年通年の年間購読に関しましては後日、別途告知致します)

申込先：下記の靈性センターニュース事務局へ、
氏名、郵便番号・住所、電話、Fax等をご記入の上、
郵送か下記のe-mailでお申し込みください。

《郵送でのお申し込み》

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25
カルメル会上野毛修道院 「靈性センター事務局」

《e-mailでのお申し込み》

tokyo@carmel-monastery.jp

*何かご質問等があれば、下記にご連絡ください。

Tel: 03-3704-2171

Fax: 03-3704-1764

『霊性センターニュース』 郵送ご希望の方

年間購読（郵送）の御案内を御覧ください！

「霊性センターへの献金」のお願い

「霊性センターニュース」は、現在、上野毛霊性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

* 献金される方は、下記の口座へお振り込みください*

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル霊性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。



編集後記

2012年が始まった。今年は、どのような年となるのであろうか。

昨年は、3月11日に東日本大震災があり、日本は戦後最悪の被害に見舞われた。単なる自然災害ではなく、福島第一原発の事故によって、幾重にも増幅された。確かに地震によって引き起こされた大津波は人間の想定外だったとしても、原発自体は、人間の知恵で人間の力で造り出したものである。原発さえなければ、今回の大震災の復旧復興も何倍もの速さで進んでいたことだろう。

大気や大地や川や海が放射能で今なお汚染され続けている。放射能のために、周辺地域の復旧復興は思うようにならない。避難している人々が故郷にもどれる日はいつか。これからも大地震が起きることが予想されているのに、国はなおも原子力依存の政策を変えるつもりはないのであろうか。

大震災直後の日本は、まさに片肺飛行であった。墜落しないですんだのは、もう一つのエンジン、広義の西日本が働いていたからだろう。もし今度、東海大地震など、工業地帯の集中している地域で大震災が発生し、大津波が来たならば、もう一つのエンジンもやられ、日本号という飛行機は墜落することになる。（P.九里）

昨年一年間、カルメル霊性センターニュースのためにご援助とご協力をいただき、ありがとうございました。今年も誌面の充実にいっそうの努力をしていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

新しい年が、困難のただ中にいるすべての人々、特に東日本大震災の被災者の方々にとって、希望に満ちた一年となるよう、心からお祈り致します。



P. 九尾 彰 o.c.d.

**Merry Christmas
& a Happy New Year!**



カルメル霊性センター事務局



.....製本／発送のご協力お願い.....

「霊性センターニュース」の製本／発送は、原則として[毎月第四火曜日](#)に行われます。作業はホッチキス綴じと購入者様への発送のみです。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。お茶とお菓子の時間もありますよ♪

「2月号」製本日 1月24日(火) 上野毛教会信徒会館ホール1階
午後1時半頃から～

※参加ご希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL 03・3704・2171